弘前城石垣修理

第 16 回 ～石垣積み直し工事の開始～

本丸東面の石垣は、約 135 mにわたって築かれています。この面は、江戸時代に築かれた部分と大正時代に修復された部分で構成されており、場所によって石垣の形状（積み方）が違っています。

平成 30 年度に解体を終えたこの石垣も、複雑な仕上がりとなっていました。このため、積み直しの際はできる限り忠実に再現し、今後も末永く良好な状態で、歴史的価値を次世代に残していく必要があります。石垣の積み直しに向けては、これまで行った発掘調査の成果をもとに、石垣修理委員会や文化庁の指導を受けながら、修理方法やさまざまな条件について検討を重ねてきました。

また、石垣解体時に行った発掘調査では、江戸時代前期に築かれたと思われる石垣の出角（ですみ）（※１）や井戸跡（※２）、排水跡（※３）が見つかりました。これらは市史や文献等の歴史資料には残っていないもので、史跡を構成する重要な遺構であるため、詳細に調査し記録を残した上で、再び埋設保存します。

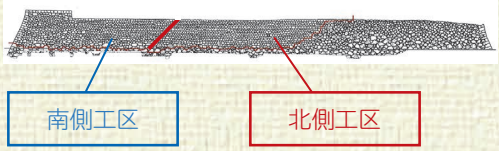
また、天守台周辺の石垣は明治時代に崩壊し、大正時代に修復された経緯があります。既に修復から 100 年以上が経過しているため、天守台の地中部を調査した結果、周辺の石垣と天守基礎の耐震補強が必要であると判明しました。約 400 トンの天守を支える部分の耐震対策は容易ではなく、工法の検討にはかなりの時間が必要です。

このため、事業に着手した時点の計画では、石垣解体後に『南側積み直し』→『天守曳戻し』→『北側積み直し』の順で工事を進める予定としていましたが、天守土台を万全な状態にすることが重要であるため、『北側積み直し』→『南側積み直し（耐震対策含む）』→『天守曳戻し』の順に工事計画を変更しました。

今秋から、「令和２年度史跡弘前城跡本丸石垣東面（北側）積直し工事」に着手しますが、年内の作業は主に現場準備と新たに補充する石材の調達を予定しています。冬期間は現場作業が休工となりますので、実際に積み直しに取り掛かるのは、来年のゴールデンウィーク後となる見込みです。今後詳細な作業工程が決まり次第、改めて広報ひろさきなどでお知らせします。

▲石垣の出角・井戸跡・排水跡の位置（北東から撮影）

▲現在の本丸東面石垣
（左手前が耐震対策を必要とする南側工区）



▲石垣積み直し工事の工区

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧ください。
http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html
■問い合わせ先　公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎ 33-8739）